

「原水爆禁止に関する世界平和会議」開会式でのスピーチ
(2024年8月7日、長崎)

安月軍(アン・ユエジュン)
中国人民平和軍縮協会事務局長

来賓

ご列席の皆様、親愛なる友人の皆様、

この度は、原水爆禁止に関する世界平和会議にご招待いただき、大変光栄に存じます。まず、中国平和軍縮協会を代表して、同会議の開催に心からお祝いを申し上げますとともに、日本における核水爆禁止全国会議の主催者に心から感謝を申し上げますとともに、長年にわたり世界と地域の平和と安定の維持に尽力されてきた各界の人々に心から敬意を表したいと思います。

今日の世界は、大国間の競争の激化、地政学的な紛争の緊張の継続、核戦争、核軍拡競争、核拡散のリスクの高まり、深刻な課題に直面している国際的な戦略的安全保障状況など、平和ではありません。このような特殊な背景から、主催者が「核兵器の先制使用の禁止」をテーマに世界平和会議を開催することは、実務上大きな意義があります。

ご列席の皆様、親愛なる友人の皆様、

先制不使用政策を明確にし、非核兵器国が核兵器の脅威から解放されることを確保することは、核兵器国が世界の戦略的安定を維持するためにとるべき重要な措置であり、また、膨大な数の非核兵器国の正当な願望でもあります。この点、中国政府の立場は明確で確固たるものである。中国は核兵器保有の初日から、核兵器の全面禁止と徹底的な廃棄を積極的に提唱し、いかなる時、いかなる状況においても核兵器を先に使用しないという原則を常に堅持し、非核兵器国や非核兵器地帯に対する核兵器の使用または使用の脅迫を無条件に控えてきた。これは核兵器国の中でも珍しく、世界の戦略的安定を維持するための中国の重要な貢献でもある。

中国は一貫して、すべての核兵器国が核兵器の先制不使用の政策をとるべき、あるいは核兵器の先制不使用を宣言すべきであり、非核兵器国に対して安全の保証を与えるべきだと主張してきた。そのために、中国政府は前向きな取り組みを行ってきました。つい最近閉幕した核兵器不拡散条約第11回運用検討会議の第2回準備会議で、中国は「核兵器の相互先制不使用イニシアチブ」と非核セキュリティに関するワーキングペーパーを提出し、核兵器国が非核兵器国の懸念と要求に真摯に対応し、核兵器の相互先制不使用に関する条約を締結または政治宣言を発表し、非核兵器国が核兵器の使用または使用の脅威を禁じることを確保するための国際法文書をできるだけ早く交渉し、締結すべきであると主張した。これは、核戦争のリスクを減らし、国際安全保障のジレンマを解決するための中国の解決策であり、持続的な平和と普遍的な安全保障の世界を構築するための新たな貢献でもあります。

残念なことに、一部の核保有国は、人類が運命を共にしているという客観的事実を無視し、膨大な数の非核兵器国の正当な願望を無視し、核兵器の先制使用に基づく核抑止政策を放棄して適切なコミットメントを行うことを望まず、世界の平和と平穏を深刻に脅かしています。私たちはこれに断固として反対します!

ご列席の皆様、親愛なる友人の皆様、

前世紀の60年代、陳毅外務大臣は、日本側と意見交換をした際、加害者が正直で、加

害者の責任を忘れない場合にのみ、被害者は自分が受けた被害から立ち直り、寛容に対処できると指摘しました。私たちは、ここにいる洞察力のあるすべての人々が、歴史の真実を受け継ぎ、平和主義を支持するという長期的なコミットメントに感謝しています。平和主義は、第二次大戦後の日本の発展と繁栄の礎となりました。現在、日本国内には軍備拡大を主張し、戦争に備える勢力が存在しており、この危険な流れは日本自身の利益にはなりません。日本でも反対意見が盛んです。有名な日本の実業家であり、中国の友人である宇都宮徳馬は、彼の生涯の前に、日中友好は日本にとって最大の安全保障であると述べていました。著名な作家である村上春樹氏も、歴史を忘れて消したりしようとするのは間違いだと言いました。我が国が平和的発展の道をしっかりと歩み、近隣諸国との友好関係を発展させ、地域の平和と安定を共に守っていくことを期待します。

平和は全人類の共通の目標であり、すべての人々の共同の努力が必要です。私たちは、すべての国の人々と協力して、平和を求め、平和を守り、平和を共有する準備ができています。

・すべての核兵器国は、非核兵器国または非核兵器地帯に対する核兵器の使用または使用の威嚇を無条件に控えることを誓約し、核兵器の恒久的保有を求めないことを明確に約束する「相互先制不使用」条約について、できるだけ早く条約を締結するか、政治宣言を发出すべきである。

——核兵器のない世界を建設することは全人類共通の利益であり、われわれはいかなる形態の核軍拡競争にも断固として反対し、最大の核兵器を保有する国々は核軍縮に対する特別かつ優先的な責任を真剣に果たすべきであり、米ロは対話を通じて意見の相違を解決し、新戦略兵器削減条約の実施を再開し、フォローアップの取極を討議して、核軍縮のプロセスを秩序ある方法で進めるべきである。

・核不拡散は国際社会の共通の願望であり、我々は、核不拡散よりも地政学的な利益を優先し、地域の平和と安定を損なういわゆる「核同盟」、「核共有」、「拡大抑止」に関与するいかなる国に対しても断固として反対する。

・米国、英国、オーストラリア間の原子力潜水艦協力は深刻な核拡散リスクをもたらしており、国際社会は国際原子力機関(IAEA)の枠組みの下で政府間協議プロセスを進めるべきである。

私たちは、福島からの核汚染水の海洋放出に断固として反対し、日本政府は、国際社会の懸念に完全に対応し、国際法上の道徳的責任と義務を果たすとともに、利害関係者の実質的な参加を得た、独立的かつ効果的な長期的国際監視体制の確立に協力すべきである。

ご列席の皆様、親愛なる友人の皆様、

少し前に、中国共産党(CPC)中央委員会第20期の第3回全体会議が閉幕したばかりです。この会議は、改革を全面的にさらに深化させ、中国の近代化を促進するための全体計画を企画し、中国の高水準開放をさらに拡大する自信と決意を示し、日本を含む世界各国に新たな協力の機会を提供する。中国の近代化は平和的発展の道をたどる近代化であり、中国の力のあらゆる点が増し、世界平和への希望が増します。われわれは、中国の発展における新たな成果により、世界平和を守るために新たな、より大きな貢献をする。

最後に、核・水爆禁止に関する世界平和会議が成功裏に開催されることを願っています。ありがとうございます！